

2017年の私たちの運動は、非常に重要な歴史的な意味を持っている

何としても明文改憲の野望を実現しようとしている安倍内閣

それでは早速始めていきたいと思います。

今日3月5日は、自民党の党大会が行われていて、総裁の任期が今まで2期だったのを、3期に延長を決定したと新幹線で流れていました。自分の任期中に憲法を変えようと言っている安倍総理大臣が、そのために自民党総裁の任期を延長する、そういう非常に緊迫した局面の中で、今日この集会が開かれているということですね。

世界全体がどうなっているのかという問題については、今年始まってずっとアメリカの大統領をめぐるテレビ番組で流れていて、皆さんお分かりだと思うのですが、アメリカの多くの人が信じていなかったとんでもない人がなぜか大統領になってしまった。それは嘘か本当かわからないような情報がネット上で、少数のプロフェッショナル達、今のトランプ大統領の一番の側近が情報操作の中心を担ったのですが、そのことによって、しかもロシアの情報機関も協力するようなネット上の情報が操作されて、直接民主主義的な選挙制度である大統領選挙そのものの結果が、あのようになった。そこにおそらく2017年という今年の非常に大きな特徴が表れていると思うわけです。

その中で日本の自衛隊が南スーダンにPKOで派遣されていて、しかも現地からは戦闘が行われているという情報が入っているのに、その「戦闘」という言葉が入った情報を、防衛省がもみ消すということが国会で明らかにされるという事態が、同時に進行しているわけです。ここに今の世界の中での日本において、明文改憲が、明確に憲法9条を標的にした形で憲法を変える、そのために自らの任期を延長し、戦後最長不倒内閣になるわけです。そういう形で何としても明文改憲の野望を実現しようとしている、その中に今私たちはいる。そのことを、まずは押さえておきたいと思います。その意味で、今年2017年の私たちの運動は、非常に重要な歴史的な意味を持っているという事を言わねばならないと思います。

軍国主義に警鐘を鳴らした夏目漱石

今年は夏目漱石生誕150年、昨年が漱石没後100年

今日の副題に「生誕150年の夏目漱石の言葉に触れて」とありますが、私は憲法学者でもなんでもなくて、日本の近代文学が専門です。

「九条の会」を作った時に、9人の方を思い出して頂けると、井上ひさしさん、小田実さん、大江健三郎さん、梅原猛さん、そして加藤周一さん、澤地久枝さん、奥平康弘さん、鶴見俊輔さん、三木睦子さん。このうちで5人までが文学者です。それで、三木睦子さんとは、ちょうど従軍慰安婦の問題で、ちゃんと日本の国は責任をとらなくちゃいけないということで、教科書から従軍慰安婦問題を削除しろという動きを、安倍を推している日本会議がやっている時に、ちょうど「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書が検定を通ったので、それはおかしいという記者会見を大江さんと一緒にやって、そのつながりで9人の方になりました。2004年6月10日にアピールを出すときに、全員となんだかんだの形で行動を共にしたことのあったのが私だったので、私が事務局長になりました。

ですから専門は日本近代文学です。それで、ある時期から漱石の専門家と言われるようになりました。その話をしていると今日の話が全部すっ飛びますので（笑い）、詳しくはかもがわ出版から『13歳からの夏目漱石』という本が、もう全部校正も済み、間もなく出来上がってくると思いますので、是非それを読んでいただければと思います。

今年は夏目漱石生誕150年、1867年に生まれています。考えてみると漱石が生まれて150年、今年は憲法施行70年、歴史がどう動いたかが明確にわかりますね。150年の後半70年、日本だけは憲法9条のもとで、戦争しないだけではなく、軍隊を持たないと言ってきたのに、軍隊もどきのように仕立て上げられた自衛隊が武器を持って、南スーダンに送られて、その武器を使うか使わないかの瀬戸際にあるというのが2017年ですね。この日本の70年の憲法とともに歩んだ憲法のあり方がこのまま持続できるのか、それとも戦争する国にしてしまうのか、大きな歴史的な局面なわけです。実は昨年が漱石没後100年でした。丁度50年の人生なので、没後100年の翌年の今年が生誕150年、便利だといえば便利ですね。私は2年連続漱石 year なので、仕事がたくさんあって嬉しい。（笑い）

「軍国主義」という題名でエッセイを書いた漱石

12月9日に亡くなったのですが、その年の新年に、『點頭録』というエッセイを書いています。點頭というのは、うなづくという意味です。新年のエッセイですから、50歳になって、「明治の初年に生まれたのに」という話です。9回の連載で、残りの8回はものすごく過激で、4回続けて「軍国主義」という題名で文章を書いています。

「第一次大戦が始まって、ドイツ帝国に始まった軍国主義が今世界を制覇しようとしている。」あの個人の自由を大切にしているイギリスで強制徴兵制の法案が通ったことに怒っているのです。そして「ドイツの大もとであるプロイセンで、強制徴兵制が始まったのが1867年だ」、わざわざそこは西暦で言っています。自分が生まれた年ですよ。だからまさに自分が生まれた年からプロイセンが強制徴兵制の軍国主義国家になって、それで1870年から1871年の普仏戦争に勝利します。

ちょうどこの時、日本の岩倉使節団がアメリカからヨーロッパに行き、これは不平等条約を改定してもらいたくて行きましたが、「まだお前らの国は全然国としての体裁が出来上がっていない」から、不平等条約は改定しないとけんもほろろに言われて、ヨーロッパはどうなっているのかと見学してくる情けない使節団でした。その岩倉使節団がヨーロッパに入った丁度その時に、プロイセンが普仏戦争に勝利し、フランスのベルサイユ宮殿で、ドイツ皇帝の就任式をやるのですよ、これ見よがしに。その直後に、まだその岩倉使節団がヨーロッパにいるのに、天皇は徴兵の詔を出して、日本は武士階級を全部リストラして、徴兵制の国になるのが1872年です。だからまさに自分の年齢と同じ、プロイセンから始まった軍国主義が今世界を制覇しつつあるが、これでいいのか、というエッセイを書いているのです。

残りの4回はトライチェク、この人はビスマルクをバックアップした、ドイツの軍国主義思想をとことん振りまいた人ですね。軍国主義思想

を振りまくとどうなるかというのが、今、森友学園の幼稚園で、教育勅語の奉読をしている。あれは反面教師として、重要ですね。毎日映し出されているのですから、ああいう日本にするのかしないのか、分かれ道になっている。そういう危機意識を漱石は語っているのですね。

何でそういうことが言えるのか。日本が日英同盟を結んで、ドイツと戦争をしていたからです。敵国の悪口は言ってもいいわけですが。でも、敵国の悪口を言うということは、日本の軍国主義を問題にするということでもあるのです。あれだけ厳しい検閲がある時代に、漱石・夏目金之助が言いたいことを言えたというのは、半分読者に任せるわけです。なかなかすごい技ですよ。小説で書かないで、読者に想像させて言いたいことを言ってしまう。

検閲をすり抜け、言いたいことを書いた漱石のすごい技

一番すごいのは、『門』という、つまらない小説なのですね、何も事件が起こらない。結婚6年目の妻のたった夫婦の日常がたんと、年末から新年にかけて書かれているだけに見える小説なのですが、始まりがすごいです。「それにしても伊藤さんは、たいへんなことになりましたね」。弟が叔父さんから学費を打ち切られてしまうので、お兄さんのところに相談しに来るのです。伊藤博文の暗殺の話です。伊藤博文が暗殺されたのは1909年10月26日です。5、6日前に新聞の記事に出たとすると、それはもう1909年の10月31日という特定の日曜日しかないのです。虚構の小説なのに、現実の歴史的時間が入っている。そのことが話題になる。5、6日前に号外が出た。その時も妻の御米（およね）が「いったいどうして殺されたのでしょうか。」そうすると、弟のほうで「なんだかピストルが3連発だったですよ」。いや、そうじゃなくて、「いったいどうしてまあ殺されたのでしょうか。」、おわかりですね。奥さんが聞きたいのは、伊藤博文がハルピンで暗殺された理由です。それを聞いているのに、夫の弟は「ピストル、ぽんぽん三連発」。「なぜ」、WHYと英語で聞いているのに、あっ、英語で聞いたわけじゃないですよ。（笑い）英語で言うと、WHYと聞いているのにHOWで答えちゃった。それで実際に、伊藤博文が暗殺された5、6日後の10月31日の日曜日の新聞には、「ピストルぽんぽん三連発」という見出しの記事が載っています。だから弟は別に間違っていない。

ただ、『門』が連載され始めたのは翌年の1910年の3月1日からで、その半月前に、伊藤博文を暗殺した韓国の安重根（アン・ジュンゲン）の死刑判決がすでに出ているんですよ。だから裁判の中身も全部公開されていますから、なんで安重根が伊藤博文を暗殺したのか、伊藤博文の大罪15カ条が新聞に載っていますから、新聞を読んでいる読者は、はっきりとなぜ伊藤博文が暗殺されたか、「私だって説明できるわよ」、という状態なのに、小説の中ではなんだかはっきりしない。そうすると読者は言いたくてしょうがないわけでしょう。そういう風に、書かないのに一番危険なところを、読者の新聞情報の記憶をうまく誘導して検閲をすり抜けるという、超高度な新聞小説の技を使った人なのです。だから、今の朝のテレビ小説、目じゃないくらいの凄さです。そればかり話すとずっとその話にいつちやいますので・・・（笑い）

そういうまさに日本が戦争に次ぐ戦争になるという状況に、日英同盟を結んで戦争に巻き込まれて入っていく、そのことに101年前の漱石は危機感を募らせていったのです。実際、その後30年は戦争に次ぐ戦争になっていくわけです。ようやく1945年8月15日に玉音放送が流れてと、なるのですが。

2017年は憲法施行70周年

憲法公布と憲法施行の違いは主語 朕と日本国民

大事なことは、今年2017年が憲法施行70周年だという事ですね。去年は公布70年。何が違うか、おわかりになりますか？主語が違う。わかった方、どのくらいいます？日本国憲法を後で、六法全書とかで調べて下さい。公布文というのは主語が朕、天皇の一人称。だから去年2016年、施行70周年、それまでは朕が日本の主権者ですね。今の日本国憲法というのは、大日本帝国憲法の改定なのです、実は。大日本帝国憲法を帝国議会で議論して、改定したものなのです。大日本帝国憲法において憲法制定権限を持っているのは、天皇ただ一人。だから、朕が施行した。だから1946年11月3日の段階では日本国憲法というのは、朕から始まり、ずっと最後まで、9条を含めて昭和天皇裕仁の独り言なのです。だから国際的な約束の意味を持つのですよ。つまり真珠湾攻撃を仕掛けて、第二次世界大戦に日本が突入したその総責任者である昭和天皇裕仁が、戦争しない、国の交戦権も認めない、軍隊も持たない、という風に世界に宣言したのですからね。

日付も微妙でしょ。1946年の11月3日に、日本国憲法は公布されていますね。何の日かご存じですね。微妙なざわざわ。（笑い）夏目漱石先生に言わせると、この日は「天長節」です。明治天皇の誕生日は文化の日です。なぜだかおわかりですね。日本が立憲君主制の国になったのは明治天皇の時ですから、それまで憲法はない。大日本帝国憲法第一条で、「大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」というのが入るでしょ。そして、第三条で「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス」というのがあります。憲法制定権限も天皇にある。ですから大事なことですけど、1946年の1月1日に教科書に人間宣言が行われた、と書いてありますね。私はぜんぜん人間ですよとは言っていない。人間でないから終身制なのです。天皇は神聖にして侵すべからずという、大日本帝国憲法による現人神宣言というのはとれていない。だから今、生前退位とかがわざわざ話題になる。人間ではない、「象徴」なんです。

靖国の祭祀権と憲法制定権限だけが残された

だから、マッカーサーと昭和天皇裕仁が天皇制を持続させるためにどういう陰謀を練ったか、おわかりでしょ。あの9月27日に、有名な子どもと大人写真、マッカーサーと一緒に映った写真が撮られた、あの日です。あの日、何を頼んだのかというと、「皇祖皇宗、天照大神の祀られている伊勢神宮から、皇祖皇宗に戦争が終わりましたという報告をしたい、最後は自分の父親の大正天皇のお墓がある多摩御陵までお参りしたいのですが、いいですか？」、戦後親拝といいますが、それをマッカーサーにお願いして、いいですよと。それで1945年の11月18日に多摩御陵まで戻ってくるのです。

そのまますんなりいけば19日は、1945年・昭和20年の、靖国神社の秋の例大祭だったのです。でもわざわざその日を外して、それまでは大元帥服といふこの国の軍服だかわからない軍服で、天皇は現人神として出ていたのですが、もう陸海二軍の統帥権も失ったし、無条件降伏

しているわけだから、その日のためだけに作った天皇服というのを着て、11月19日を外して、11月20日に個人的に参拝したという話になるのです、靖国に。

陸海二軍の統帥権は奪われ、統治権もマッカーサーに奪われた、でも靖国の祭祀権はまだ残っていた。だから天皇が参拝したことによって、全ての太平洋戦争での死者は英霊にしてもらったでしょ、これで戦争遺族を全部味方につけるわけです。このイデオロギー部隊が日本会議でしょ、安倍を支える。そうやって囲い込んで、味方を作った。だから死者は裁かない。生き残った者たちだけを東京裁判で裁いて、天皇の戦争責任をいっさい問題にしないで、9人のA級戦犯に全部押し付けというのが、東京裁判の筋書きでしょ。だから、靖国の祭祀権と憲法制定権限だけを残した。

1946年1月1日の人間宣言と言われているのは、明治天皇が出した5箇条の御誓文をそのまま引用している。だから主語がないのですね。

「九条の会」の呼びかけ人の井上ひさしさんは、2000年代に『東京裁判三部作』を書いた。『夢の裂け目』、『夢の泪』、3作目は『夢の痂（かさぶた）』というのですが。その中で、日本語には主語がないということを国語の先生が発見した、という話が出て来る。これも当たっている。1946年1月1日の人間宣言には主語がない。いきなり、明治天皇の五箇条の御誓文を引用して、その後から、朕とくる。そうすると憲法制定権限だけは明治天皇から受け継ぎました。それで、1946年の11月3日に朕の名において日本国憲法を公布するわけです。その時は誰も意識していなかったのだけれども、それから半年間かけて無血革命が進行して、1947年の5月3日が施行の日になるわけですね。この日から、日本国憲法前文で、「日本国民は」が主語になって、「主権がここに国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」ってあるでしょ。おわかりですね。制定したのは昭和天皇裕仁なのです。それが、6か月間の無血革命を経て、確定したのが日本国民。その日付が5月3日。何の日ですか？憲法記念日と言わないで下さいよ。事後的に憲法記念日。

5月3日は東京裁判が開廷した日

5月3日というのは東京裁判が開廷した日です。この日付合わせはアメリカ、大好きなのです。おわかりでしょ。昭和天皇裕仁の戦争責任は一切免責をして、全部あのA級戦犯に押し付け、しかし、岸信介ら有能なA級戦犯容疑者は釈放してアメリカの言いなりに使うという、この判断をして、9人をdeath by hanging、絞首刑にしたのはいつですか？12月23日ではないですか。12月23日って、何の日？そう、明仁さんの誕生日。明仁さんは自分が1才年をとる度に、自分の父親裕仁を救うために、あの9人が絞首刑になったのだという事を思い出させられ続けて、こうなっているのですよ。こうなっている、とはどうなっているか皆さんわかっていらっしゃるじゃないですか。(笑い) ベトナムへちゃんといらっしゃっているわけですね。

2017年、憲法施行70周年、そういう日本の戦後史そのものが問われている。だからこそ、絶対にあの安倍晋三のもとで明文改憲などさせてはならない。そういう日本の、生きていけば150年間の日本の近代の前半は、戦争に次ぐ戦争をやり続けた。夏目漱石は五つの戦争に囲まれているのです。生まれた時が戊辰戦争、塩原家と夏目家の間をやりとりされていた時が西南戦争、大学を卒業して日清戦争、小説家デビューが日露戦争、死ぬ時、第一次世界大戦。そういう人なのです。そういう時代なのです。

市民の運動に押された野党共闘

日本国憲法によって、この70年間、日本は戦争しない国としてやってきた、そのことをどういう風に改めて考えるか。

そこで大事なことは、まさに2015年、自衛隊を戦場であるスーダンに派遣しているPKO法の改悪も含めた、戦争法制が国会で強行採決されていった、その年に生み出された野党共闘を、どう私たちが今の状況の中で、発展させていっていかけてことが、大きく問われているわけですね。これは、日本の政治の歴史上初めて、市民運動が後押しをしながら野党が共闘するという体制が、今ようやくでき始めている。ここが大きく違うところです。私は2015年安保闘争という風に呼んでいますけど、それは60年安保闘争があるからですね。それから、その10年後に、10年経つと日米安保条約はどちらかの国が破棄通告をすれば破棄できますよという事で、日米安保条約を破棄する政府を作ろうという70年安保闘争があったが、これは不発に終わりますね。なぜそれが不発に終わったのか、ということに日本の政治史上、問題があったのです。つまり60年安保闘争というのは政党としては、日本社会党と日本共産党という二つの政党を日本労働組合総評議会、総評という、日本の労働組合を束ねる団体が間に入って、それで統一戦線を作ったわけですね。これが日本社会党と日本共産党と日本労働組合総評議会の傘下にある130余の団体が「安保反対国民会議」というのを作って、これが大きな運動を進めていったのですね。

60年安保闘争

私は60年安保世代だという風に自負されている方、何人くらいいらっしゃいますか。はい、十分の一くらいですね。私は小学校一年生でした。私の母親がかなり偏った母親だもんですから、国会前に二度行きました。十列くらいで、ジグザクデモなのです。たいへんですよ、小学一年生がジグザクデモについてゆくのはね。おわかりでしょ。ジグザクデモはジグで行って、ザグで戻る。一番はじっこにいと、ものすごい勢いで走らなければならない。だから女の人がいる隊列を探して入れてもらって、「なんだかきれいな人ばかりだなあ」と思ったら、新劇人の会かなんかで、佐々木愛さんが隣にいたり。それでね、そんな事思い出しながら、子どもの世界で安保ごっこが流行ったですね。私は東京ですが、東京だけでなく、全国津々浦々で流行っていたと皆さん言ってますけど。安保ごっこ、やったことあるという方いらっしゃいますか。ああ、いた。同い年ですね。私は小学校一年生だったですけど、三年生はバカにしてやってなかったですね。一、二年生で流行って、たいしたことないですよ。20人くらい集まって、4人くらいずつスクラムを組んで、校庭を「安保反対」ってジグザク、ただそれだけの遊び。(笑い) 1960年の5月くらいから運動が高まって行って、6月に毎日30万の人が集まって、だんだん熱くなっていくのです。当時の学校はエアコンとかないですから、職員室の窓が開いているのです。職員室の窓の前を通るといのが大事なことです。(笑い)「安保反対」と言って、職員室の窓から先生が何人か顔を出して、手をたたいて。そうすると私たちは「安保反対」。あちらは日教組。日教組なんて誰も知らなかった。それでね、安保ごっこの始まりの掛け声というのがあったのですよ。クラスで集まってスクラム組むでしょ。そうすると学級委員の偉そうな奴が掛け

声をかける。それがね、今思い出してもすごい言葉だった。なんて言うか。「今日の動員は何名だ！」(笑い) って言うのです。「11名だ。」(笑い) だけど、誰も動員という言葉の意味を知らない。動員ですよ、軍事用語でしょ。

協調できない野党と分裂していった労働運動

ある国の軍隊が戦争体制に入ると動員という。そうなるとその国のすべての国家システムは戦争体制になって、経済も流通も全部、戦争のためにゆくのですね。普段、学校で勉強している子供たちも勤労働員となるでしょ、工場に行かされる。この動員が解かれることを復員と呼ぶ。1960年というのは、まさに復員をしてまだ15年です、多くの人たちが戦争体験を持っていた。二度とあの戦争を繰り返してはいけないという思いが、軍事同盟である日米安保条約に反対する。9条があるのだから自衛隊を持つてはいけない、アメリカ軍の基地があるのもおかしい、そういう大きな声があがったわけですね。そういう運動だったわけです。けれども強行採決が行われて自然成立という風にして、その後、一緒に運動をたたかった日本社会党と日本共産党は路線の問題でなかなか協調できなかった。だから、国政レベルではできないけれど、地方自治体レベルで、いわゆる革新自治体というのまでは作ったのですが、この体制が分断され続けてゆくわけですね。それから、86年に社会党の石橋正嗣委員長が「自衛隊は憲法違反だが、合法だ」という発言をして、当時の共産党の宮本顕治委員長も社会党とは一緒にできないという風になって、3年後の89年に、日本労働組合総評議会が解散をして、連合に吸収されるわけですね。そして、連合は日本の労働組合の右翼的再編だと批判してきた人たちが、全労協だとか全労連を作って、日本の労働組合運動も分裂していくという状況になった。

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

これを、実は1989年、99年、2009年、20年間でしょう、26年間分裂していた状況を統一していったというのが、2015年の安保闘争の運動体として生まれた「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」。文学の専門家から言わせると文学的センスのひとつかけらもない(笑い)、わけのわからない長い題名の、組織の名前がつけられている。でもね、この長い題名の中に、統一への苦労が刻まれているのですよ。この総がかり行動実行委員会が戦争法に反対する2000万人署名を呼び掛けて、やりました。この署名用紙をご覧になった方、どのくらいいらっしゃいますか。ほぼ全員ですね。あの署名をとった方と聞かないところが微妙です。(笑い) ほとんど全員ご覧になった。じゃあ、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」と書いてある下に電話番号が三つ入っていたという事にお気づきになった方、どれくらいいらっしゃいますか。4人ね。はい、注意深い方です。(笑い) ここに秘密がある、実はね。長い題名があって、電話番号が三つあって、それで何かなって見ると、最初に「1000人委員会」、真ん中は「9条壊すな実行委員会」、一番右が「憲法共同センター」。三つあった組織が、一生懸命話し合いをして一つになったのが、この長ったらしい題名。さらに下を見ると、三つの組織のフルネームが書いてあります。

「1000人委員会」は「戦争させない1000人委員会」。これは先程言った1989年にできた連合という労働組合の全国組織の中の左派と言われる、日教組、自治労、そういう組合の人たちが基地に反対したり、イラク戦争に反対したり、或いは沖縄の基地建設に反対したり、そういう運動をやった平和フォーラムという組織がある、ここが中心になって、2014年にできたのが、「戦争させない1000人委員会」。この呼びかけ人には、「九条の会」の呼びかけ人の大江さんとか澤地さんも入っていますし、私も呼びかけ人の一人です。母体は連合という労働組合の全国組織ですね。民主党を支持していますから民主党系です。

真ん中の「9条壊すな実行委員会」、これは「解釈で9条壊すな実行委員会」です。2014年の解釈改憲で、自衛隊の集団的自衛権の行使容認に反対する首都圏の市民運動組織ですね。この市民運動組織は2000年代からせめて5月3日の憲法記念日の日は、かつての社共共闘のように社民党の党首と、日本共産党の委員長が一緒に会場で手をつないでほしいと言っています。「5・3憲法集会」というのを首都圏でずっとやってきた市民運動グループですね。だから、旧社共共闘系市民運動グループ。

それから、一番右の「憲法共同センター」というのは、題名はすごく長いですね。でもひっくり返して「憲法共同センター」と言っています。89年に独自の全国組織を作った全労連の小田川義和(おだがわよしかず)さんが仕切っている。政党としては日本共産党も入っていて、新日本婦人の会とか民主商工会とか、いわゆる世の中的に言うと日本共産党系の全国組織の集まりです。

三派鼎立していた組織が一つになったのが「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」という組織です。だから、1000人委員会と9条壊すな実行委員会はそのまま言葉が入っていて、後から入った憲法共同センターは中黒とビックリマークで入れてもらっているという、落としどころに苦労したなという、まとまるまでは大変だったろうなという、現場にいましたから本当に大変だったんです。

そういう組織が2015年の5月3日の憲法集会から統一行動を始めたんですね。それで横浜の臨界パークという所、東京には2万人入るところがないですね、2万人集めようというので、横浜の臨界パークでやったら、3万人集まりました。でも、ここに野党の代表が出たのですが、実行委員会からの「手をつないでください」という強い要請にもかかわらず、かたくなに拒絶した。(笑い) それはそうですね。小沢一郎と志位和夫が手をつなぐなんて、あまり考えられない、という状態だったのです。

安保法制反対運動

5月14日に安保法制が閣議決定されて、連日木曜日、国会前で集会が開かれるようになり、そしてシールズの若者たちが金曜日にやり、木・金連続行動になってきたのです。ですから、先程言った三つの組織、「1000人委員会」は福山真劫(ふくやましんこう)さんという自治労出身の方が中心です。それから「9条壊すな実行委員会」は私と一緒に「九条の会」の事務局をやっている高田健(たかだけん)さんという方が中心。「憲法共同センター」は全労連の委員長の小田川さんが中心。この三人が話し合っ、傘下の組織をずっとまとめていったわけです。だから、かつての運動が分裂したのはどこかが主導権をとろうとしたからですね。難しい言葉で言うとヘゲモニー闘争といいますけど。それは絶対しないということで、木・金連日国会前に行かれた方は気付いたと思いますが、ああいう集会は「やりますよ」という最初の演説と、「今日はお集まり頂いてご苦労様です。」という中仕切りと、「今日は全部で何千名集まりました。明日も頑張りましょう。」という最後の演説と、三つあるのです。この三つを必ず回していく。だから一日目が福山さん、高田さん、小田川さんだとすると、次の日は小田川さんから始まって、福山さん、高田さんになる。コールやる人もそれぞれの組織から、必ず回していく。だから、集会参加者にも伝わったわけですね。

そして、シールズの若者たちが「野党は共闘」と呼びかけて渋谷をジャックしました。若者たちに言われたらやっぱり、かたくなな野党の党首も手をつながざるを得なかった。この時は、維新の会まで出てきて手をつないじゃった、渋谷で。もう、手をつなぐしかないですね。ですから、7月に衆議院で強行採決された時には、文字通り野党の党首が市民たちの前でしっかりと手をつないで、「国会内で野党は共闘していきます」、という約束をしたのですよ。たかが、手をつなぐということですが、しかしそれが運動の力によって、今まであったさまざまな歴史的な経緯を乗り越えて、手をつないだわけですね。岡田代表と志位委員長が手をつなぐなんて、すごいことなんです。そして、参院で強行採決される時に、志位委員長は衆議院議員ですから国会の外に市民と共にいたわけです。その時に、国会内と携帯でやりとりしながら、「野党はがんばれ、野党はがんばれ」と。高田さんはもう、集会経験がすごく長く、半世紀以上ずっとやっている人ですが、自然発生的に「野党は共闘」という掛け声が集会参加者から出てきたという事はある得ないと、運動経験上ね。それだけ野党がきちっと国会内で提携していけば、あの安倍政権を追い落とす事は可能で、具体的になっていくことを、まさに運動の中から多くの人たちがつかんでいって、そして、その場で志位さんは決断しちゃうのですね。連合政府を作ろう。機関決定を経ずに言っちゃった。

参議院選挙で結ばれた共闘

だから、市民の運動が変わることによって、政治家も変わり政党も変わる。でも 2015 年以前には野党共闘は出来なかった。参議院選挙が迫っている、統一候補をたてなければいけない。それで、この国会前で運動していた五つの市民の運動体が市民連合を作って、野党の代表と対等に意見を交わして、「あなた方は私たち市民の願いをちゃんと背負って共闘しなさい。」というので、2月9日、参議院選挙で共闘が結ばれたわけですね。こんな市民の下からの運動の積み重ねとその声があって、実現した事なのです。だから、日本の政治史上画期的な事だったですね。

そして、一人区で、最初は無理だと思っていたところがたくさんあったけれども、全ての一人区で野党統一候補をたてて、そのうち11の選挙区で勝利をした。沖縄と福島は現役の閣僚を落として、野党統一候補が勝利したわけですね。そしてまさに青森の駐屯地から自衛隊が送られる青森でも、野党候補が勝利をしたわけです。自民党が強いと言われていた東北で、野党共闘候補が圧勝していく、そういう事態を 2016 年の参議院選挙では作り出していったわけですね。

新潟県知事選挙で発揮された野党共闘

そういう中で、新潟の県知事選挙の時に、野党共闘の大きな力が発揮されたわけですね。候補者の米山さん、民進党員でした。で、民進党をバックアップしているのは連合です。新潟の連合の一番の主力は電力労連です。原発大支持です。だから、脱原発なんてことで、絶対に応援はしないという風に言われて、一端は断念した。でも、考えに考えて、もし民進党という政党に自分が属していて、それを連合という組合が支援する、民進党に自分が属している以上、出ちゃいけないと言われるのだったらと考えると、やめたわけですね。政党をやめて無所属になって、それで市民の願いを実現しようという事で、立候補を決断された。つまり、単なる組織や政党のレベルではなくて、本当に市民が願っている政策のレベルで決断をされた。政党を離れて、その政策の一致点で共闘を作った時に、政党のレベルより、あるいは連合傘下かどうか、そういう事を超えて、脱原発の一点で、大きな統一戦線組織が新潟で、あの田中一族が仕切っている新潟で、大きな勝利を実現したわけです。

政策で一致して野党共闘を作っていく

つまり、この政策で一致して野党共闘を作っていくという、ここに、大きな政治の転換に向けての、2016年の参議院選挙からその後の運動の中で切り開いてきた、大きな成果があるわけです。ですから、今この時点で、どれだけ多くの衆議院の小選挙区で市民の運動に押された野党共闘の候補を出していけるのかどうか、この国のあり方を、明文改憲を絶対に許さない、そういう力を作っていくためにも決定的に重要だということですね。そのことをどうやって実現してゆくのか、ということです。大事な事は、市民の運動に押された野党共闘という事、政党に任しておくだけではうまくいきません。草の根の市民運動があって、どのようにそれを進めてゆくのか、ここに改めて2004年6月10日に発足した「九条の会」の活動をどういう風に推し進めてゆくのか、という事です。

漱石生誕 150 年の今年、150 年間という単位で日本の歴史を考える

資本主義の構造そのものが軍国主義化

そこで改めて、最初に申し上げましたけれど、今年漱石生誕 150 年だという事、150 年間という単位で日本の歴史を考えてみるとどうなのか。既にお話ししましたけれど、『点頭録』で、1916 年の段階で漱石は軍国主義に大きな警鐘を鳴らした。これはですね、一言でいえば、まさに産業の構造、つまり資本主義の構造そのものが軍国主義化しちゃったということですね。それに、漱石は強い警鐘を鳴らしていったわけです。何が大事かと言うと、2017 年という今年、アメリカが第一次世界大戦に参戦して 100 周年、そのアメリカでトランプというとんでもない大統領が産み出され、嘘の情報操作で国民の世論を引きつけて、140 文字のツイッターのつぶやきだけでジャーナリズムと対抗するという、そういう事態を生み出している。この事を考えてみると、何がどうなったのかということが、非常にはっきり見えてくるわけですね。

第一次世界大戦の主要な争いは中東の石油をめぐる利権

なんで 1917 年、アメリカが第一次世界大戦に参戦したのか。それは第一次世界大戦の主要な争いが中東の石油をめぐる利権だった。そこが中心だからアメリカが参戦する。おわかりですね。「アラビアのロレンス」の世界。今でも中東の国々、国境線、真っ直ぐでしょう。あれも人工的、人工的って変ですけど、もともと国とかなかった所に国境線を引いてしまったという事ですね。直線が出てきたら、そこに戦争の影あります、国境に関して。つまり、一気に産業構造が石炭から石油へ、ということは、外燃機関の蒸気機関から内燃機関のガソリンエンジンに転換したというのが 1917 年。だからヨーロッパの領土の問題など関係ない。中東の石油だ。そこがすべてだ。そこが戦争の中心になってしまったから、ヨーロッパで戦争していてもしょうもない、というので東部戦線からロシア軍が引いて、1917 年にロシア革命が起きるわけでしょう。今年は

ロシア革命 100 周年です。第一次世界大戦にアメリカが参戦したというのは、主要な戦場は中東の石油問題だ、というそういう戦争。だから領土戦争をやっても仕方がない。つまり、今年ロシア革命を祝う人がいるのかどうか分かりませんが、アメリカ参戦 100 年とロシア革命 100 年の、2017 年だ、という風に考えてみると世界史の流れと今何に私たちが直面しているのか、ということが非常に明確に見えてくるわけですね。

まさに大量破壊兵器の時代でしょ。ガソリン機関になったから飛行機が武器の中心になり、飛行機で爆撃するから、戦闘員と非戦闘員の区別もつかない無差別空爆になっていくのが、ゲルニカであり、重慶であり、そしてその最たるものが広島、長崎なわけですよ。つまり、第一次世界大戦というのはそういう、人類の皆殺し戦争に道を開いてしまったわけですね。だから、戦勝国は国際連盟を作ったけれども、その常任理事国だった日本が満州事変をおこして、まさにドイツ、イタリアと一緒に枢軸国を作って、第二次世界大戦で 5000 万人の犠牲者を出すわけです。

第二次世界大戦後も石油をめぐる利権が最大の問題

この第一次世界大戦後のパリ不戦条約から第二次世界大戦後の国連憲章へいく段階で、戦争はしてはならない、国権の発動たる戦争はしてはならないということを、国連憲章第 2 条で決めたわけですね。これが 1945 年の 6 月 25 日、国連憲章の制定がされたわけですね。しかし、第二次世界大戦後も実は石油をめぐる利権、これが最大の問題になっているわけですね。もちろん、世界で石油がとれるのはなぜか中東なわけですね。そして、ヨーロッパでナチスドイツによって虐殺、強制収容所連行されてきたユダヤ人の国をつくるという事で、あの中東の石油産油国の真ただ中にイスラエルという国を、アメリカとイギリスという第二次世界大戦の戦勝国だけの承認でつくったわけですね。これが、第二次世界大戦後の今に続いている紛争の火種のおおもとです。だから、トランプ政権がイスラエルのアメリカ大使館をどこに置くのかという事で、物議を醸しているというのは、1947 年問題に、今火種が戻っているということですね。

国連憲章では国権の発動たる戦争は違法だとなった。でも国権の発動たる戦争はしてはいけないのに、それに違反した国が出たら、自衛の戦争はしていいですよ、というのが、国連憲章第 51 条に入っているのです。その自衛の戦争をする際に、よその国と軍事同盟を結んで、そのよその国がやられたら助けていいですよ、というのが安保法制で問題になった集団的自衛権の行使ということですね。この集団的自衛権の行使という言葉が出て来るのが、1947 年にイスラエルが建国した時に、アメリカとイスラエルが、イギリスとイスラエルが二国間の軍事同盟を結んで、ここで集団的自衛権の行使という概念が出てくる。これが何度も行われた中東戦争の火種でもある。

この冷戦体制、ヨーロッパにおいてはドイツを二つに割って、ソ連と西側が対立している。しかし、本当の対立は実は石油の利権をめぐる問題だ。こういう第二次世界大戦のアメリカの世界支配のあり方というのが、今大きく揺らぎ、このまま維持できるのかどうかという事態になっている。つまり 100 年前のアメリカは石油利権のために第一次世界大戦に参戦したけれども、今は世界のことはもう知らない、アメリカファーストだ。自国のことしかオラ知らんぞ、というところになっている。

軍事力に寄らない安全保障のあり方を、どう実現してゆくのか

ですから、ここで改めて大きく世界の局面が変わっている中で、日本国憲法第 9 条が、第

二次世界大戦後、世界に示したこの軍事力に寄らない安全保障のあり方を、どう本当の意味で実現してゆくのかという事が、改めて重要な課題になってきているという事ですね。

この局面で、アメリカではとんでもないトランプ大統領が出て来て、毎日のように暗殺事件の報道が出されて、そして中国の全人代が今行われています。「中国や北朝鮮が攻めてきたらどうするのか」というような人たちが、教育勅語を奉読するあんな幼稚園を基にした小学校に子どもを入れようかと思っているかどうかは別にして、今、何が問題の要にあるのかという事をきちっと 9 条を中心に私たちが草の根運動で明らかにしていく事ができるかどうか、これが大事な運動の結節点だという事ですね。

南スーダンに派遣されている自衛隊の戦闘行為が、なぜ問題になるのか

まず、一番目に大事なことは、今南スーダンに派遣されている自衛隊の戦闘行為ということが、なぜ問題になるのか、そのことが戦争法廃止の運動とどういう風に関わっているのか、という事を改めてしっかりと押さえておく必要がある。今、南スーダンに派遣されている自衛隊は P K O という任務で派遣されています。これは国連の業務ですね。P K O というのは頭文字三つで、P は peace 平和、K は keeping 維持する、O は operation、Peace Keeping Operation 国連の平和維持活動という風に呼ばれています。

PKO に協力する法律ができた経緯

この PKO に協力する法律というのが、1992 年の宮澤喜一政権の時にできた。ここから日本の自衛隊が海外に出るようになる。それはね、日本の自衛隊は日本の領海内に攻撃があった時にだけ、領海内で反撃するという建前だった。つまり、戦力ではなくて自衛のための最低限度の実力です、という説明をしていた。日本の領海の外には出てはなりません、という事だった。だけれども出れるようにしようではないかというのが PKO。なんで宮澤喜一政権の時に、PKO 協力が通ったかという、その前に 1990 年にイラクが隣のクウェートに軍事侵攻して、この時すでにソ連のゴルバチョフのペレストロイカが進んでいて、ベルリンの壁が 1989 年に崩れて、ヨーロッパの東西冷戦は終わり、世界は一つという流れだったですね。この時に初めて、国連の安全保障理事会で、それまでは国連の安全保障理事会というのは、常任理事国がアメリカ、それからイギリス、ABCFR と覚えておいて下さい。A はアメリカ Amerika、B がブリテン Britain のイギリス、C がチャイナ China、F がフランス France、R がロシア Russia・旧ソ連ロシアです。

アメリカとソ連が対立していましたから常任理事国のどこかが拒否権を出すと決まらない。だから第二次世界大戦後もなにも決まらなかった。でもベルリンの壁が崩壊して安全保障理事会で決議があがるようになった。それで初めてクウェートに侵攻したイラクにやめなさいと、軍事行動を伴う経済制裁をする。その軍事行動の多国籍軍に日本の自衛隊を出す、そういう案が出ていた。それが宮澤喜一政権の前の海部俊樹政権で、その時の自民党の幹事長が小沢一郎氏だった。若い人にそのことを絶対語ってあげて下さいね。今の大学生、小沢一郎が自民党だったと知りま

せんから。自分の生まれる前の話ですからね。自分の生まれる前の話というのは、もう第二次世界大戦も日露戦争もごっちゃになっての昔ですから。この時に小沢一郎氏は自民党の小沢憲法調査会というのを作って、国連の安全保障理事会の決議があれば、世界のどこにでも自衛隊を送っても構わないという、解釈改憲をやろうとしたが、宮澤喜一をはじめとする自民党のハト派が、河野洋平さんとかが反対して、ならなかった。そして宮澤喜一政権になった時に PKO には出しましょう、でも自衛隊は領海内で守るために武器を使うのだから、武器は持っていきません、そうすると武器を持っていかないで行ける所という話になるのですね。

自衛隊は非戦闘地域にしか行けない

この時のキーワードが「非戦闘地域」という五文字。自衛隊は非戦闘地域にしか行けません。これを覚えておいて下さいね。これを明確にしたのです、PKO の原則の中に。戦闘状態が終わって、対立していたところが、日本から来てくれと皆納得しての、いくつかの条件、一番大事なのが非戦闘地域。非戦闘地域という五文字はあのイラク戦争に自衛隊を協力させようとした小泉純一郎政権も縛ったでしょ。覚えていますか？外務省の職員が探してきたサマワという町、「イラク全土は戦争状態になっているのに、どうしてサマワという町だけが未来永劫安全だと言えますか。総理、それでもあなたは体を張って守れと言えますか」、と追及された小泉純一郎がなんて言ったかという、「自衛隊の行く所が非戦闘地域です。」と言っちゃった。でも、この発言を内閣総理大臣の口から引き出したのが、決定的に重要ですね。自衛隊の行く所が非戦闘地域だったら、そうしなければいけない。だから当時のイラク派兵の中心だった柳澤協二（やなぎさわきょうじ）さんね、今私たちと一緒にいろんな運動の先頭に立っていらっしゃいますし、最近も戦闘問題ではテレビに何度も出ていらっしゃいます。柳澤協二さん、この自衛隊の行く所が非戦闘地域なのだという言葉の内閣総理大臣の口から、国会で引き出したという事が決定的に大きかった。

憲法 9 条を持つ日本は、世界的に最も先進的な紛争解決の具体的な方法を提供できる

自衛隊が行っている所、一緒に警備している人を頼まなければいけない。ここを非戦闘地域にしておいて下さいと。それは世界からイラクとかに派遣されて、みんな来たくないの。だからアメリカも入っている NATO という軍事同盟に入っているから、アメリカがやると言ったら協力しなければいけない。だから、部下を連れて来ている。部下を殺したくない。日本にはなんと素晴らしい憲法があるのだろうと、まさに世界の軍事関係者たちが日本の憲法 9 条の重要性に目を開かれていくわけですね。つまり、自分たちの安全に関係のないアメリカの世界戦争の手先にされるのはごめんだ、という思いと日本国憲法 9 条のすごさはっきりとつながっていった。

つまり、こういう中で日本の国際貢献というのは、まさに憲法 9 条を持つ国なりのやり方なのだという事を、実は世界中にしっかりと知らしめてきたわけです。それを、現場から戦闘状態だという報告があがってきているのに、それをなかったかのように、防衛大臣がねじ伏せるといふ、もうこれは絶対に許しがたいことだし、これほど自衛隊員の命を軽視しているという事はないわけですね。

ですから、大事なことは日本が憲法 9 条を持っているが故に、世界的に最も先進的な紛争解決の具体的な方法を提供できるのだという事です。日本が戦争しない国だから、丸腰で現場に行って、「あなた方戦争やめなさい。」、武装解除に応じるわけですよ。それはまさに、戦争しない日本の国連の職員が行って、さまざまな武装勢力の武装解除に成功している訳ですよ。それは 9 条を持つ日本だからできる。9 条を持っている日本だから信頼している。その 9 条を持っている日本が鉄砲を持って、自衛隊員が姿を現したら、いったい日本はどういう風に変質したのか、イラクの人たちはそうやって高遠菜穂子さんに文句を言うてくるわけですよ。逆に言えば、イラクの人たちは日本が銃を持たないで、ずっとイラクに貢献してきたではないかという歴史を知っているわけですよ。

安倍晋三政権の危険性

つまり、ここに今日本がどういう役割を果たすべきなのかという事で、とても重要な課題があるのです。ですからアメリカの言いなりになって、何でもアメリカの言う通りにしますという、まさにトランプ詣でをし続けている安倍晋三政権の危険性、日本をいったいどこに方向づけしようとしているのか、という事を私たちとしてはしっかりと明らかにしていかなければならない、という風に思うわけです。

北朝鮮が攻めてきたらどうするのか

そこで、アメリカの言いなりになる安倍晋三政権が、どれだけ今の事態の危険性というのを導き出しているのかという事を改めて振り返っておく必要があるわけです。それはこの間、問題になっている北朝鮮問題、多くの人は北朝鮮が攻めてきたらどうするのか、という事が言われていますけど、北朝鮮の問題がこれだけ緊迫してしまうその条件を作ってしまったのが、第一次安倍晋三政権だったと、この責任はしっかりと明確にしておかなければなりません。そして、それはまさに憲法 9 条が施行されて 70 周年の年に、改めてこの事は考えておかなければならない問題ですね。

朝鮮戦争は終わっていない

それは、どういうことか。なぜ、北朝鮮はあれだけミサイルを撃ったりしているのか、その一番の根本的な理由はどこにあるのかって事ですね。ここはね、日本の中では明確になっていない。一言で言います。朝鮮戦争が終わってないからです。1950 年 6 月 25 日に、38 度線を越えて、朝鮮民主主義人民共和国軍が大韓民国に攻め入って始まったとされている朝鮮戦争は、1953 年 7 月に休戦協定だけを結んだまま、現在に至っている。お休みしているだけ。

ブッシュ政権がやろうとしたのが六ヶ国協議

ですから実は、9・11 の後、9・11 をやった犯人はアフガニスタンに潜んでいるビンラディン一味だといって、アフガニスタン攻撃をしたのだけれども泥沼になっちゃった。そして、イラクが大量破壊兵器を持っているとあってイラク攻撃をやったけれども、それも泥沼になってしまった。あのブッシュ政権の最終段階に、あのまま大統領をやめちゃうと、ブッシュ政権というのはアメリカ史上最悪の政権だったという

風になるから、せめても一つだけいいことをしておこうと思って、ブッシュ政権がやろうとしたのが六ヶ国協議という、ほとんどの人が忘れて
いる。日本の外務省がこの六ヶ国協議に非常に大事な役割を果たしたわけですね。どういうことか、先程言ったように、朝鮮戦争は終わって
ないわけですね。朝鮮戦争に関わった六カ国、おわかりですね。北朝鮮と韓国が戦争をやったわけです。北朝鮮をバックアップしたのが中華人民
共和国と旧ソ連・ロシア、韓国をバックアップしたのがアメリカとアメリカの出撃基地になったのが日米安全保障条約を結んでいる日本だった
わけです。だから、この六カ国が共同のテーブルについて朝鮮戦争を終わらせる、つまり朝鮮戦争の講和条約を結ぶための条件をめぐって協議
をしましょう、ということをやろうとした。

第一次安倍政権の浮揚策は北朝鮮拉致家族問題をあおる事

でも、第一次安倍晋三政権は、この北朝鮮拉致家族問題を政権浮揚策の梃にしていたので、絶対に協力しないという態度をとって、こじれて
しまったわけですね。だから、小泉政権の時に、拉致家族問題が明らかになり、それをあおって日本会議などが、「北朝鮮はひどい国だ」という
風で大宣伝したわけですね。つまり安倍晋三政権の浮揚策は北朝鮮拉致家族問題をあおって、北朝鮮に対する反発をあおっていく事によって、
日本の右派勢力をかきたてていく、ということをやった。これを政権の大事な支えにしたために、この六カ国協議を成功させるという具体的な努力を怠った。
更には北朝鮮とさまざまなルートを持っていた政治家たちも切られていった。小泉政権が 2002 年に訪朝する段階では、日朝国交回復を結ぶと
いう方向性だった。その中心になっていたのは田辺誠・日本社会党委員長と金丸信自民党副総裁だ。二人で一緒に北朝鮮に行っていた。でもこ
の金丸信が佐川急便事件で切られたでしょ。実は佐川急便事件で切られたのは細川護熙もそうでしょ。このあたり、何がうごめいていたのか 1992
年代に。しっかりと思い起こしておく必要があるわけです。微妙な沈黙・あ、私が黙っている（笑い）

初めて自衛隊を海外に出したことで日本の政治が大きく変わった

日本の政治が大きく変わったのは、今言った 1990 年代の問題で、PKO で自衛隊が海外に派遣されたのが 92 年からですね。この初めて自衛
隊を海外に出した宮澤喜一政権に対して、野党が不信任案を出したのが 93 年の 6 月ですね。自民党は圧倒的多数だったから通らないはずなの
に通っちゃった。なぜか。自民党の小沢グループと鳩山グループが賛成したから、不信任案が通っちゃった。それで小沢グループは羽田孜を立
てて新生党を作って自民党から離脱。鳩山由紀夫は武村正義を党首にたてて新党さきがけを作って自民党から離脱。もともと自民党を離脱して
日本新党を作っていた細川護熙と、9 条があるから国際貢献はできないので、9 条をなくして国際貢献のできる日本を、というのを選挙スロ
ーガンにして、大改憲選挙をやったのが 1993 年の夏でしょ。それで自民党が大敗して、小沢一郎の政界再編で 7 党 1 会派、細川護熙政権がで
きたのが 93 年の夏ですね。初めて自民党が野党に転落した。この初めて自民党が野党に転落した選挙で、世襲三世 1 年生衆議院議員になっ
たのが安倍晋三という政治家でしょ。

そして細川護熙に政権を渡す数日前に、初めて野党に転落した自民党の総裁にさせられた河野洋平、宮澤喜一政権内閣官房長官が従軍慰安婦
問題に日本軍が関わっていたという内閣官房長官談話を出したわけですね。それで教科書に載っちゃったわけでしょ。これに最初から反対して
いるのが安倍晋三を中心とする日本会議に支援された右翼グループですよ。その連中が今の政権を全部担っているわけ。

だからこの、自衛隊の PKO による海外派遣をめぐって、大きく事態が動いた。おわかりですね。なぜ事態が大きく動いたか。91 年にソ連が
なくなった。ソ連がなくなるということは、日米安保条約いりませんね。日米安保条約はソ連の核の脅威に対して、日本がアメリカの核の傘で
守ってもらうという話ですから。91 年の年末にソ連がなくなった以上、日米安保条約はいらないですよ。宮澤喜一政権はその可能性を探ったわ
けですよ。いらないと言われると困る、だからクリントン政権は新たな敵をなんとかして作らなければならないというので、北朝鮮の核開発
疑惑をグワーッと押し上げたのが、93 年からでしょ。

細川護熙政権が突然終わった理由

で、皆さん、もう忘れていませんか。細川護熙政権が突然終わったでしょ、あれ。理由、おぼえています？絶対あり得ない、国民の
福祉だけに使う国民福祉税を出しますという、深夜の国会で言った直後にやめているでしょ。細川護熙政権、何をやったかという、改憲のた
めの小選挙区制の導入だけやったわけでしょ。なんでやめたでしょう。あの時、北朝鮮危機をアメリカがあおったわけですよ。それで第二次朝
鮮戦争勃発か、という事態になる。だから、韓国は民主的に選ばれた金泳三（キム・ヨンサム）政権ですから、絶対協力しない。そうしたら日
本からやるしかないでしょ。だけど、細川護熙政権は日本社会党が政権与党に入っているわけですよ。日本社会党は当時、朝鮮労働党と友党で
すね。北朝鮮と一線構えようという時に、そこの政権政党と友党の政党が政権に入っているとどうなるか。これは潰すしかない。というので、
小沢一郎を使って細川政権をつぶして日本社会党を離脱させて、少数与党の羽田孜政権を作った。思い出してきました？その羽田孜政権がで
きたばかりの時に、米中国交回復をやったジミー・カーター元大統領が北朝鮮に飛んで、あのキム・イルソン（金日成）と会談をして、米朝枠組
み合意というのを作って、「独自の核開発はしません。」という約束をとる。これで、北朝鮮危機はなくなった。という風にして、河野洋平さ
んは初めて総理大臣にならない自民党の総裁になってもかまわないからというので、日本社会党の村山富市さんを首相にして、村山富市政
権ができるのが 2 か月後でしょ。そしたら、その 2 週間後にキム・イルソンさんが死んで、息子のキム・ジョンイルが世襲で継いだ。クリントン大
統領はアメリカの大統領と同じ重要な任務に世襲でつかせるのか、と言って一気に北朝鮮危機が高まった。それで国会で村山富市さんに「日米
安保条約に対してどうなのですか、自衛隊はどうなのですか」、といたら、「日米安保条約堅持、自衛隊は合憲」と言って、日本社会党はつぶ
された。だから、北朝鮮問題はそこから、そういう風に使われてきている。だから、根の深いもの。

本当に 9 条を活かし切る

9 条を持っている日本のやるべき外交

そのところを私たちは大元の元に戻って、そもそもの対立、朝鮮戦争が終わっていないから、9 条持っている日本が中心になって、朝鮮

戦争を終わらせる、そういう枠組み合意を六か国で作ったら、どうなりますか？今、北朝鮮があるから日米安保条約を結んでいるわけでしょ。当事者の六か国と一緒にアジアの安全保障どうしましょうかと話し合って、国際条約を結べば、まさに集団的な安全保障体制になるわけでしょ。中国も入っている、北朝鮮を非核の国にするわけですよ。そしたら、韓国と日本と北朝鮮が非核の国だったら、核保有をしているアメリカとロシアと中国に、いったい何時なるときまでに核兵器を無くすことにするのかをこの条約の中に盛り込みなさいと、一気にアジアの核廃絶も進むわけですよ。それが9条を持っている国のやるべき外交じゃないのか、というところまで、しっかりと私たちは9条を守っている可能性を今だからこそ、この四半世紀の歴史を振り返りながら、しっかりと多くの人と討論していく必要があるわけです。

「九条の会」は本当の草の根の力

だから、まさに本当に9条を活かし切ることが、今あるさまざまに複雑な、もう戦争しかないじゃないの、みんなこうなっているでしょ。だから、思考停止すると、人間はだんだん危機感にあおられる。人間が人間である理由は、こうやって集まってつどえるのは、人間だけです社会的に。つどいとそれだけで安心するわけです。いろんな人たちがいるな、それでわざわざ私を遠くから呼んで話を聞く。(笑い) わざわざ、こんな忙しい時に (笑い)、引き受けた私が悪い。1時間か2時間、考えるわけじゃないですか。つどって、熟慮し、熟考して、そして何をどうしたらいいかを判断する、というのが人間。社会的生きものとしての、人間の知恵ですよ。「わあ、どうしよう」、とか言って、ツイッターで「いいね」みたいに、これはもう非人間化の、トランプ支持の、そっちに追い込まれた人たちのあり方。私たちは、なんでそれぞれの地域で「九条の会」を作って、話し合いながらやっていきたいと思いますという風に、あの時、2004年6月10日ですけど、提起したのか。そこはやっぱり、人間の社会がどんどん、その資本の力によって分断され孤立化されてきたのですね。だから、それに対抗できる本当の草の根の力っていうのが、「九条の会」。だって「九条の会」がなければ野党共闘は実現していませんよ。ここで、声をひそめる必要はないですけど (笑い)。

2004年「九条の会」を作ったときの世論調査 「憲法変えた方がいい」が65%

2004年「九条の会」を作ったとき、93年から改憲政党が複数政党になっているわけです。それまでは自民党だけが憲法改正と言っていましたからね。新聞は不偏不党だから、改憲政党が複数になりましたから、もう読売新聞は1千万の読者を相手に大手を振って、9条があるから日本は国際貢献ができないというキャンペーンを張った。だから2004年の時の世論調査でいうと、「憲法変えた方がいい」が65%、「変えない方がいい」はわずか22%。その草の根の運動を通して、2008年の、あの年末年始の年越しの日比谷の派遣村を打ち抜いた時、あそこで初めて、分裂していた日本の労働組合が、三つの全国組織が一つになって、やったわけですけど、あの年に、15年ぶりに「憲法変えない方がいい」が多数派になったと、読売新聞が悔しそうに報道したわけですね。で、あの年にリーマンブラザーズショックだったでしょ。

そして2009年が政権交代選挙だった。けれどもこの政権交代への願いを、民主党が見事に裏切って、あのどうしようもない野田政権になり、なんでそいつが今、幹事長なのか腹立ちますが (笑い)、そこはおいといて。つまり、そういう政治変革を作った中で、たまたまですけど民主党政権の時に3・11だったわけですね。だから、それでその政治変革への希望というのを全部奪われちゃった。だから、有権者が選挙へ行かない国になっちゃったのね。2012年に第二次安倍晋三政権が出て来るのもそういうこと。

総選挙で勝ち抜く野党共闘を実現するために全力を出していく年に！

この状況を転換するためには、今改めて2016年、去年、「憲法変えない方がいい」という人が世論調査ではっきりと多数派になった。それは私たちが運動を通じて作りだしてきているわけですね。この力を本当に結実させるためには、憲法9条が今世界における現実をどう変えうる力を持っているのか。本当に憲法9条を使いこなせる政権ができたなら、どれだけ私たちは貢献できるのか。その事をはっきりと、9条を使って日本が世界に貢献できる国になる、その方向性を今指し示すべきだと思います。これだけ混乱している世の中で、世界においてははっきりと展望の光を指し示すというのが憲法9条の路線です。つまり、ここにアジアの外交も、いや世界の外交も大きく転換させる可能性が内在しているわけです。そこを一致点にしながら、当面は総選挙で、小選挙区で、勝ち抜く野党共闘をどう実現するのか。その野党共闘を実現するための市民運動の力を私たち「九条の会」が中心になって、それぞれの地域に作り出していく。そのために全力を出していく年にしましょう。どうも有難うございました。(拍手)